

秦野市指定無形文化財

盆の伝統行事「うりゅうのひやくはったい瓜生野百八松明」について

本市南矢名の瓜生野地域には、数百年前、あるいは江戸時代中期頃から続いていると言われていた「百八松明(ひやくはったい)」行事があります。

毎年旧盆の8月14日に、五穀豊穰と悪疫退散を祈願して、地域の保存会が、権現山から火が付いた大松明をかついで龍法寺まで山を下り、門前で松明を振り回す勇壮な民俗行事です。また、百八松明に合わせて、江戸時代から伝えられている「瓜生野盆踊り」も行われます。



瓜生野百八松明は昭和50年に、瓜生野盆踊りは昭和52年に、それぞれ本市の無形文化財に指定しています。

1 とき・ところ

- 8月14日(木) ※雨天の時は15日(金)
午後3時～ 松明作り(南矢名上部町内会館周辺)
午後7時～ 松明点火(権現山山頂)
～ふもとの龍法寺門前へ移動
午後8時～ 盆踊り(南矢名上部町内会館)

- 2 実施主体 瓜生野百八松明保存会実行委員会(山口多美子委員長)
瓜生野盆踊り保存会(小林理恵子会長)

3 概要

午後3時頃から、保存会のメンバーらが麦わらを使って長さ2～3メートル・直径30センチほどの大きさの松明を50～60本作り、権現山山頂へ運びます。

日が沈む午後7時頃、山頂から龍法寺まで保存会のメンバーらが松明を肩に担いで大きな掛け声とともに下山します。少し離れた位置から見渡せば、山腹に点々と松明の炎が移動する様子が見られます。

下山後は、龍法寺前で勢いよく松明を振り回します。残り火が勢いを増したり火の粉が飛び散ったりと大迫力の舞を見ることができます。

百八松明が終わる頃、龍法寺付近の南矢名上部町内会館前では、瓜生野盆踊りが始まり、女性たちによる「若松様(手踊り)」「ささら舟(手拭いを持って)」「おっちょこちょいのちょい(扇を持って)」の3種類の踊りが披露されます。



4 その他（虫追い行事「下大槻百八炬火」）

8月14日の夕方には、水田耕作が盛んな下大槻地域でも「百八炬火(ひゃくはったい)」という虫追いの行事が、下大槻百八炬火保存会(原孝道会長)の手によって行われます。

あぜ道に並べられた百八のわらに火がつけられ、神輿や旗、太鼓囃子が練り歩き、「斉藤実盛様」のわら人形を焚き上げ、米の豊作と無病息災を願います。虫追いの行事も、県下では数少なくなっています。



5 市無形民俗文化財等保存活動事業補助金の交付

市内に残る無形文化財の伝承や後継者の育成を奨励するため、保存団体に対し、次のとおり活動経費の一部を補助しています。

- ・ 瓜生野百八松明保存会 59,000円
- ・ 瓜生野盆踊り保存会 36,000円
- ・ 下大槻百八炬火保存会 45,000円

問い合わせ 生涯学習課文化財班 電話0463(87)9581

会場周辺地図

